

CKD 患者における骨格筋量とたんぱく質摂取量の検討

済生会松阪総合病院 管理栄養課¹⁾ 内科²⁾

○西村 萌¹⁾、福家 洋之²⁾、川守 真奈¹⁾、松本 由紀¹⁾、石川 英二²⁾、清水 敦哉²⁾

【目的】

サルコペニアを合併した CKD 患者の増加が問題となっている。サルコペニア合併 CKD 患者においては、たんぱく質摂取制限の緩和を検討するため骨格筋量やたんぱく質摂取量の把握が重要である。今回 CKD 患者に対する適切な栄養指導にむけ骨格筋量、たんぱく質量について検討したので報告する。

【方法】

対象は 2020 年 1 月～12 月に初回栄養指導を行った保存期 CKD 患者のうち、24 時間蓄尿検査及び体成分分析検査を実施した 38 例。蓄尿検査よりたんぱく質及び食塩摂取量を算出、体成分分析より骨格筋指数 (SMI)、体脂肪率、細胞外水分比 (ECW/TBW) を算出、SMI とたんぱく質摂取量の相関を比較検討した。また、SMI のカットオフを男性 < 7.0 kg/m²、女性 < 5.7 kg/m² とし SMI 低下群 (S) と正常群 (N) の 2 群間で患者背景、体組成、腎機能、たんぱく質及び食塩摂取量について検討した。

【結果】

男性 26 例、女性 12 例、年齢中央値 71 歳。eGFR (中央値) 43mL/分/1.73 m²。食塩摂取量 6.9g/日、たんぱく質摂取量 0.84g/日/IBW。体成分分析では BMI (中央値) 男性 24.1、女性 22.0 ($p=0.014$)、SMI 男性 7.6、女性 6.0、ECW/TBW 男性 0.392、女性 0.397 であった。SMI とたんぱく質摂取量に関しては正の相関を認めた ($r=0.45$)。S 群は 10 例 (26.3%) で、N 群と比較し有意に高齢 ($p=0.011$)、BMI 低値 ($p=0.029$) であった。たんぱく質摂取量は S 群 0.71、N 群 0.88 (g/日/IBW) と S 群で低い傾向を認めた。S 群の 60%、N 群の 43% でたんぱく質摂取量が 0.8g/日/IBW 未満であった。

【結論】

CKD 患者においては初回栄養指導時点で、過剰なたんぱく質摂取は認められなかった。たんぱく質摂取量は骨格筋量に影響している可能性があり、たんぱく質制限緩和を念頭においた継続的な栄養指導が必要であると考えられた。